

島根県東部の農林水産業

令和4年1月

島根県東部農林水産振興センター

島根県東部の農林水産業

- 東部管内の69%を森林が占め、農地の面積は9%。
- 管内の農家戸数は約1.7万戸（県全体2.7万戸の63%）、そのうち販売農家の割合が54%、自給的農家の割合が46%となっている。
- 基幹的農業従事者に占める65歳以上の割合は、東部管内で85%と高齢化が進んでいる。

■主な気象条件

	松江市 (平坦地)	赤名 (中山間)	東京
平均気温 ℃	15.2	11.7	15.8
日照時間 hr	1705.2	1576.0	1926.7
降水量 mm	1791.9	2044.9	1598.2
最深積雪 cm	20	78	6

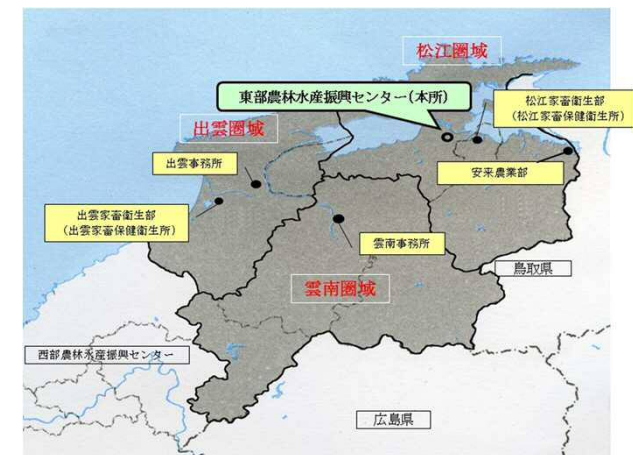
出典：気象庁HP 平年値1991-2020年

■管内圏域別指標

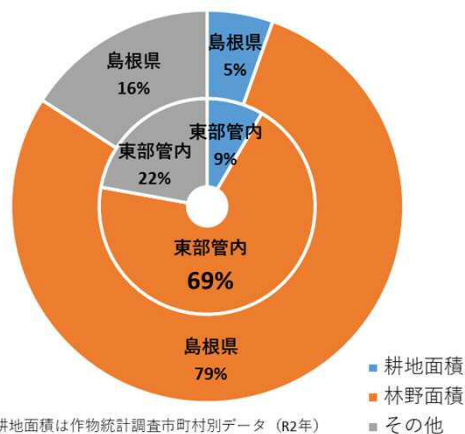
圏域	人口 (人)	総面積 (千ha)
松江	239,320	99.4
出雲	171,950	62.4
雲南	51,914	116.4
管内計	463,184	278.2
島根県計	666,941	670.8

出典：人口 推計人口年報（R2.10.1現在）

総面積 国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」（R3.4.1現在）

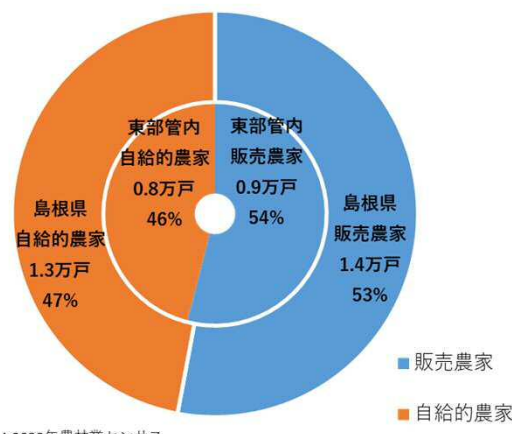


■管内における耕地と林野の割合



出典：耕地面積は作物統計調査市町村別データ（R2年）
林野面積は2020年農林業センサス

■農家の分類



出典：2020年農林業センサス

■基幹的農業従事者の高齢化率（65歳以上）

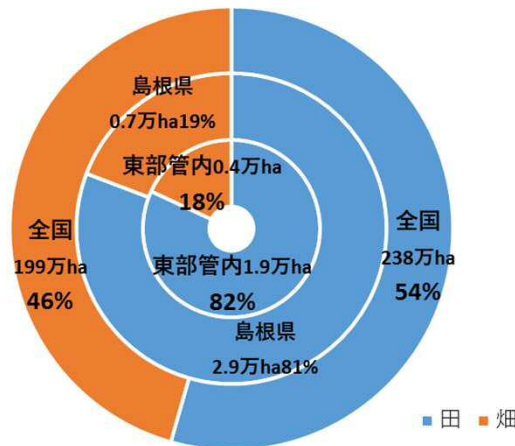


出典：農林業センサス（2010、2015、2020）

島根県東部の農林水産業

- 耕地面積に占める水田の割合は、県全体と同様に82%と高く、米需要の減少や販売価格の下落の影響を大きく受けやすい構造が課題。
- 農業産出額は県全体の51%を占め、部門別では米・果実が70%、野菜は56%と高い。
- 耕地面積の約70%が松江・出雲圏域で占めるが、産出額シェアは松江・出雲圏域の耕種部門が約57%と高く、雲南圏域では畜産部門が約13%と高い。

■耕地面積に占める水田の割合



出典：農林水産省作物統計調査市町村別データ（R2年）

■農業産出額

市町	農業 産出額	耕 種（内訳は主なもの）						畜 産（内訳は主なもの）			
			米	野 菜	果 実	花 き		肉用牛	乳用牛	鶏	
松 江 市	46.5	42.8	20.8	13.5	2.2	X	3.7	1.4	0.9	1.3	
出 雲 市	123.9	99.0	48.8	19.8	19.6	5.5	24.9	9.1	14.0	1.3	
安 来 市	43.2	35.7	23.6	7.1	2.8	X	7.4	2.8	2.7	1.6	
雲 南 市	38.7	24.5	17.2	3.8	1.7	X	14.2	5.4	2.9	5.7	
奥 出 雲 町	34.7	24.0	16.2	6.3	0.6	0.6	10.7	9.4	0.8	0.4	
飯 南 町	24.8	10.5	7.6	2.0	0.3	0.0	14.3	1.2	7.3	0.0	
管 内 計	311.8	236.5	134.2	52.5	27.2	6.1	75.2	29.3	28.6	10.3	
品目割合（品目額/産出額）	100.0	75.8	43.0	16.8	8.7	2.0	24.1	9.4	9.2	3.3	
割合（管内/県）	51	66	70	56	70	34	30	33	33	25	
島 根 県 計	612	359	193	94	39	18	252	90	88	42	

出典：市町は令和元年市町村別農業産出額（推計）、県計は令和元年生産農業所得統計

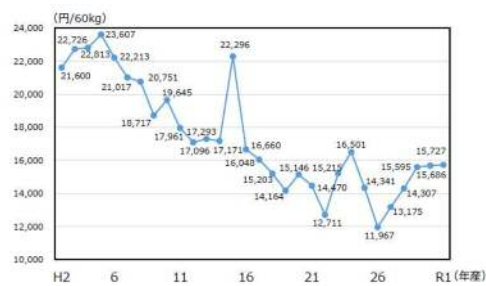
■参考

【主食用米の需要量の推移】



資料：農林水産省「米穀の需給及び価格の安定に関する基本計画」

【米の販売価格の推移】



資料：（財）全国米穀取引・価格形成センター「米穀の取引に関する報告書」
注1：平成2～17年度までは（財）全国米穀取引・価格形成センター「米穀の取引に関する報告書」
注2：平成18年度以降は出雲市・松江市・雲南市・安来市・飯南町・奥出雲町の6市町別の平均値
注3：センター価格は、銘柄別の取引数量で加重平均した価格であり、相対取引価格は、銘柄ごとの前年度販売数量ウェイトで加重平均した価格である。

■市町ごとのシェア

（単位：%）

市 町	耕地面積 のシェア	産出額のシェア			
		耕種		畜産	
松 江 市	19.4	14.9	13.7	1.2	
出 雲 市	32.9	39.7	31.8	8.0	11.5
安 来 市	16.8	13.9	11.4	2.4	
雲 南 市	15.1	12.4	7.9	4.6	
奥 出 雲 町	10.8	11.1	7.7	3.4	12.6
飯 南 町	5.0	8.0	3.4	4.6	
管 内 計	100.0	100.0	75.8	24.1	24.1

（注）管内耕地面積および産出額に対する各市町のシェア率を試算したもの

試算の根拠となるデータは、耕地面積（作物統計市町村別データR2年）、
産出額（令和元年市町村別農業産出額（推計））

島根県東部の農林水産業

- 販売金額別農家数は、50万円以上1000万円未満の中間層が約45%と県全体の約43%に比べやや高いが、1000万円以上の割合は約4%と同様の状況。
- 認定農業者数は県全体の61%を、集落営農組織数は64%を占めている。
- 新規就農者数は、令和元年度以降高めに推移し、そのうちの約7割が雇用就農、雲南圏域ではその割合が高い。

■販売金額別農家数

販売額	戸数				備考
	東部管内		島根県		
1000万円以上	412	4.2%	652	4.3%	販 売 農 家
500万円以上 1000万円未満	396	4.1%	602	3.9%	
300万円以上 500万円未満	383	3.9%	578	3.8%	
50万円以上 300万円未満	3,614	37.3%	5,313	34.8%	
50万円未満	4,894	50.5%	8,140	53.3%	
(30a未満)	7,815戸		12,789戸		自給の 農家

出典：2020年農林業センサス

■担い手の状況

(単位：経営体数、組織数、社)

圏域		認定農業者数		集落営農組織数		農業参入企業
			農業法人		集落営農法人	
市町村認定	松江	196	53	111	36	17
	出雲	351	106	118	68	19
	雲南	187	101	196	65	15
県認定（東部管内）		2	1			
管内計		736	261	425	169	51
島根県計		1,197	418	663	260	108

出典：農業経営課調査(令和3年3月末、ただし農業参入企業数は令和2年3月末)

■担い手(新規就農者)の状況

圏域		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	H26-R2	
		(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)
松江		18	20	20	24	27	47	24	180	100
	自営	7	6	4	7	4	13	12	53	29
	雇用	11	14	16	17	23	34	12	127	71
出雲		40	42	31	34	40	55	45	287	100
	自営	16	15	11	7	13	13	11	86	30
	雇用	24	27	20	27	27	42	34	201	70
雲南		22	25	28	22	15	15	23	150	100
	自営	7	4	6	3	5	3	10	38	25
	雇用	15	21	22	19	10	12	13	112	75
管内計		80	87	79	80	82	117	92	617	100
	自営	30	25	21	17	22	29	33	177	29
	雇用	50	62	58	63	60	88	59	440	71
島根県計		171	169	173	163	176	182	185	1,219	100
	自営	59	48	48	40	56	47	60	358	29
	雇用	112	121	125	123	120	135	125	861	71

出典：農業経営課調査(各年度末の数値)

島根県東部の農林水産業

- ほ場整備については、田は出雲市で90%以上と高く、次いで雲南圏域で70%台と高い。
 大区画の整備率でみると安来市で約16%と高い。畑地では、国営開発地を有する奥出雲町で約86%と高い。
- 主な獣害による被害額をみると、イノシシ被害が最も大きく約2.6百万円の被害を及ぼしている。

■ほ場整備率（R1）

（単位：％）

市町	田		畑	計
		大区画		
松江市	64.6	1.0	25.2	52.8
出雲市	92.0	5.5	39.7	84.7
安来市	59.0	15.8	34.3	55.5
雲南市	78.2	2.6	39.3	71.6
奥出雲町	74.1	0.1	86.2	76.4
飯南町	78.8	1.2	12.8	70.0
島根県計	77.6	4.1	40.9	70.5

出典：しまねの農業農村整備2020（島根県農林水産部農村整備課・農地整備課）、*大区画：1区画50a以上

■主な獣害による被害額（R2）

（単位：千円）

市町	イノシシ	ヌートリア	シカ	その他
松江市	4,298	324	0	9
出雲市	2,521	187	212	330
安来市	5,422	885	0	424
雲南市	9,218	205	10	490
奥出雲町	3,604	0	0	272
飯南町	903	225	0	0
管内計	25,966	1,826	222	1,525

*暦年、東部農林水産振興センター調べ

■多面的機能支払制度の実施状況（R1）

市町	組織数	取組面積(ha)
松江市	79	2,362
出雲市	86	5,338
安来市	97	2,358
雲南市	89	1,908
奥出雲町	9	2,504
飯南町	22	1,070
管内計	382	15,540
島根県計	631	22,491

出典：しまねの農業農村整備2020（島根県農林水産部農村整備課・農地整備課）、数値は農地維持支払交付金

■中山間地域等直接支払制度の実施状況（R1）

市町	協定数	取組面積(ha)
松江市	41	285
出雲市	78	704
安来市	82	878
雲南市	193	1,733
奥出雲町	122	2,027
飯南町	55	1,016
管内計	571	6,643
島根県計	1188	13,023

出典：島根県農林水産部農林水産総務課ホームページから集計

島根県東部の農林水産業（特徴的な事例）

■平坦地



(*)安来：のきの郷（1区画1haが基本）

能義平野では100ha規模の大規模
集落営農法人が10年で6組織誕生



(*)中海干拓：キャベツ団地

イオングループ（イオンアグリ
創造(株)）の農業参入によるキャベ
ツ栽培（生食・加工用）

■中山間地



(*)飯南：夏秋トマト

鹿児島県の農業法人がミニトマ
トのリレー出荷（時期をずらした
出荷）を目的に島根に進出



ドローンを活用した生育診断・防除

斐川地域は、担い手への農地集積率が80%と高
いが、担い手の経営安定や労力不足を解消するた
め、更なる水田フル活用により農地集積率125%
を目指し、スマート農業の普及・拡大に取り組ん
でいる。



雲南市ブランド米振興大会

雲南地域は、中山間地帯の特徴を生かし
た良質米生産地として知られている。
H28から始めた「プレミアムつや姫」は
83ha（57戸/R3.12）まで拡大

（注）事例（*）の出典は、農林水産部「島根県農業の現状・課題と対応（平成31年4月）」

島根県東部の農林水産業（特徴的な事例）

■水田園芸(*)

JAしまね出雲ブロッコリー部会



[出雲市平田町 11月頃]

- ・旧平田市を中心に、昭和62年から、女性でも取り組みやすい収益性の高い品目として、ブロッコリー栽培が拡大。
- ・現在、部会員83人で1.3億円を売り上げ、「かあちゃんブロッコリー」としてブランドが確立しており、契約販売など安定的な販路も確保。

■美味しまね・GAP(*)

JAしまね出雲アスパラガス部会



栽培状況

商 品



- ・平成30年3月に部会40名中11名でグループを作り、GAP認証を先行取得。
- ・平成31年4月からは、新たに25名が団体認証に加わり、部会員の9割がGAPに参加。

■有機農業(*)

赤江・オーガニックファーム(安来市)



[安来市赤江地区のハウス団地]

- ・構成員の5名は、全員がUターン者。
- ・有機栽培に取り組む仲間を増やすため、研修生を積極的に受入れながら構成員を増やし生産を拡大。（現在のハウス面積1.7ha）
- ・有機JAS認証を取得し、共同出荷により関西方面を中心に販路を拡大。

■肉用牛生産

雲南地域の和牛生産



- ・雲南地域は、和牛主産地として良質な奥出雲和牛を生産
- ・近年では、畜産総合センターを核として集落営農組織や酪農家との連携による新たな和牛生産システム構築に取り組んでいる

島根県東部の農林水産業（特徴的な事例）

■新規就農

なかうみプロジェクト（安来市）（*）



〔リースハウス〕



〔イチゴ収穫風景〕

- ・安来市では農業者、市、ＪＡ、普及部で構成する「なかうみプロジェクト」を結成。
- ・「本気でイチゴやろう」をキャッチコピーに、イチゴの就農パッケージを作成。県外の就農フェア等で新規就農者を積極的に確保。
- ・リースハウスを活用しH27以降7名が新規就農、80aで新たにイチゴ栽培が開始。

農業士会との連携（松江市）



- ・新規就農者の早期の経営安定を実現するため、松江管内では新規就農者と農業士会との合同の視察研修を行うなど支援を行っている。

■集落営農

法人化・広域連携（雲南圏域）



- ・集落営農組織の法人化、組織間連携などすすめ、組織の経営力強化を目指している。
- ・雲南地域では、R元年度以降新たに5集落営農法人と4広域連携法人が設立され70法人（R3.12）となった。

宍道湖西岸地区（出雲市）



〔サポートセンターで導入した汎用コンバインによる小豆収穫〕

- ・大規模圃場整備が進む宍道湖西岸地区では、サポートセンター（H31.3.18設立）の機能強化支援や高収益作物導入（小豆、小麦、ブロッコリー等）に向けた支援を行っている。

島根県東部の農林水産業（特徴的な事例）

■品目

大根島の牡丹（松江市）



島内で栽培される353品種を網羅した牡丹品種データベースを活用した商談会など、豊富な品種構成を生かした販路拡大が進められている。
アメリカ、オランダ、台湾、ロシア等へも牡丹苗が輸出されている。

令和2年度から収穫が始まる 県オリジナル品種‘神紅’（出雲市など）



神紅(*)

糖度20%以上とシャインマスカット（同18%以上）より高く、他品種より鮮やかな赤色に仕上がる。

母の日の主力商品アジサイ（出雲市など）



万華鏡(*)



銀河(*)



茜雲(*)

グラデーションがかった花がコンパクトに集まる「万華鏡」と、白く縁取られた花が散りばめられた「銀河」は、花の新品種コンテスト「ジャパンフラワーセレクション」において、最高賞となる「フラワー・オブ・ザ・イヤー」を、それぞれ2012年、2016年に受賞。

一般品種に比べ2～3週間早い4月上旬からの出荷が可能。草姿がコンパクトかつ強健なことから管理作業の大幅な省力化が可能。

県内酒造会社も期待する 県オリジナル酒米（安来市など）



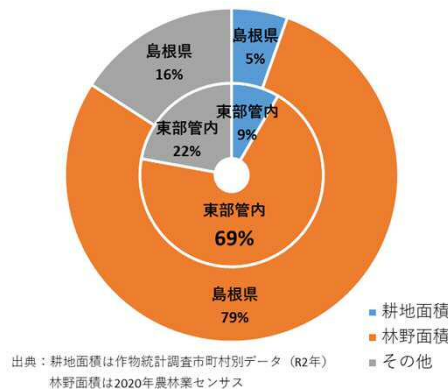
縁の舞(*)

「山田錦」と比べ10%以上収量が多く、粒が大きく品質も優れ、収穫時期に倒れにくいなど、栽培しやすい。

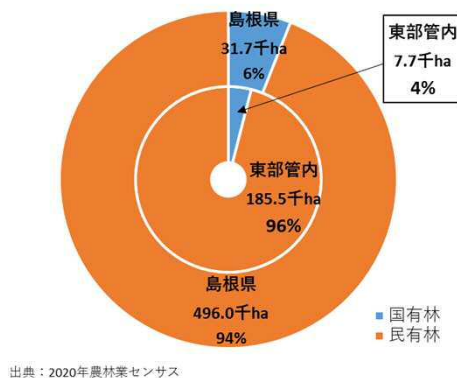
島根県東部の農林水産業

○東部管内において、総面積に占める林野の割合は69%で、そのうちの96%が民有林。
○民有林のうち、林齢が40年以上の割合は、面積（針葉樹＋広葉樹）では78%、蓄積（針葉樹＋広葉樹）では83%であり、管内森林資源のほとんどは主伐期にあるといえる。

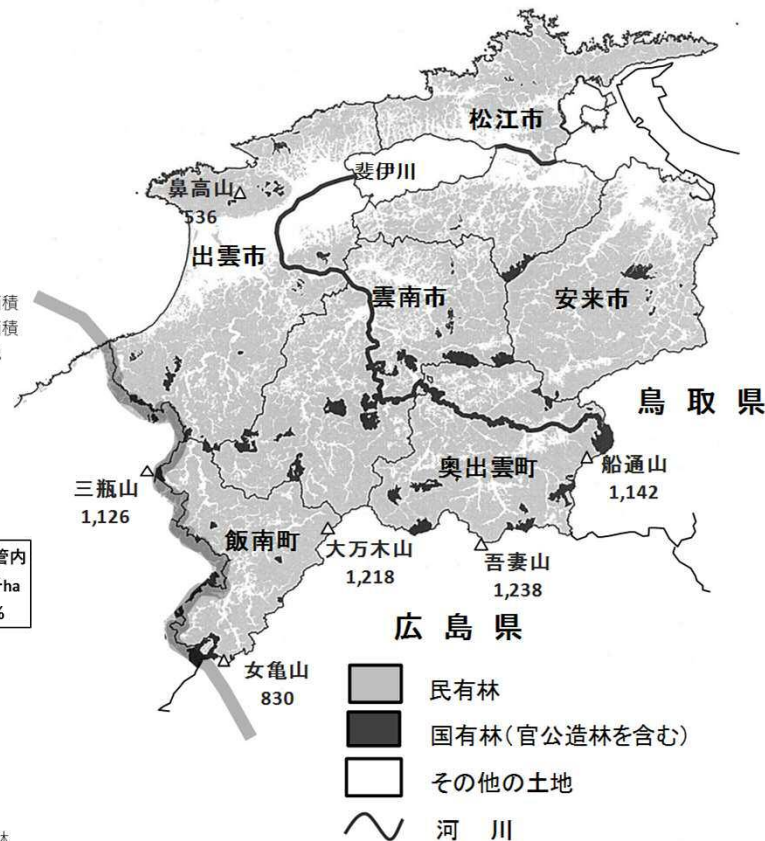
■林野面積の割合



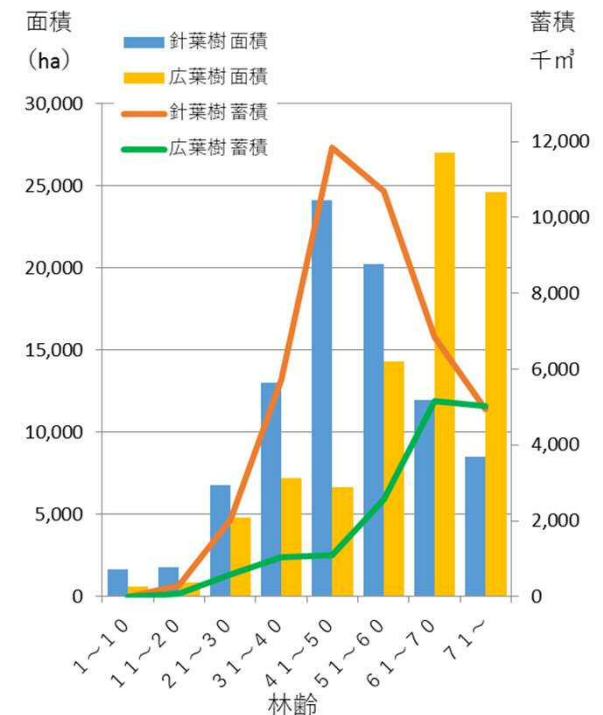
■民有林の割合



島根県東部の林野分布概況



■管内民有林森林資源構成状況



島根県東部の農林水産業

- 管内の林業就業者数は461人（林業事業体数30）で県全体の約48%を占める。
- 主伐期を向える管内森林の木材生産量を高めるためには、林業就業者の確保が必要であり、農林大学校林業科への入学者確保を図る必要がある。

■林業事業体数および林業就業者数

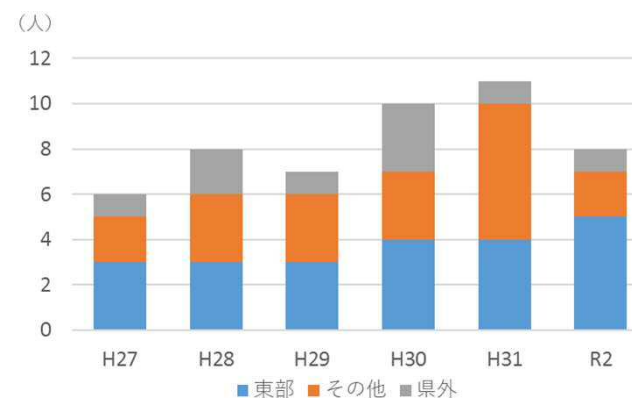
（単位：事業体、人）

市町	林業事業体	うち認定事業主	林業就業者	うち認定事業主 が雇用する林業就業者
松江市	7	7	101	101
出雲市	12	7	136	122
安来市	2	2	66	66
雲南市	8	6	121	116
奥出雲町	1	1	37	37
飯南町	0	0	0	0
管内計	30	23	461	442
島根県計	73	50	970	890

出典：林業課資料（令和3年3月31日現在）

※県内に複数の営業所がある林業事業体については、本社がある市町に数値を計上

■島根県立農林大学校（林業科）への入学者推移



出典：島根県農林水産部「令和2年度島根県の森林・林業・木材産業」

島根県東部の農林水産業

- 管内の民有林の約4割に当たる73千haが保安林に指定されている。
- そのうち約9割の63千haが水源かん養保安林となっている。
- 森林の持つ機能の維持・向上を図るため保安林内において災害の復旧・予防が行われている。

■民有林保安林の指定状況（令和3年3月末現在）

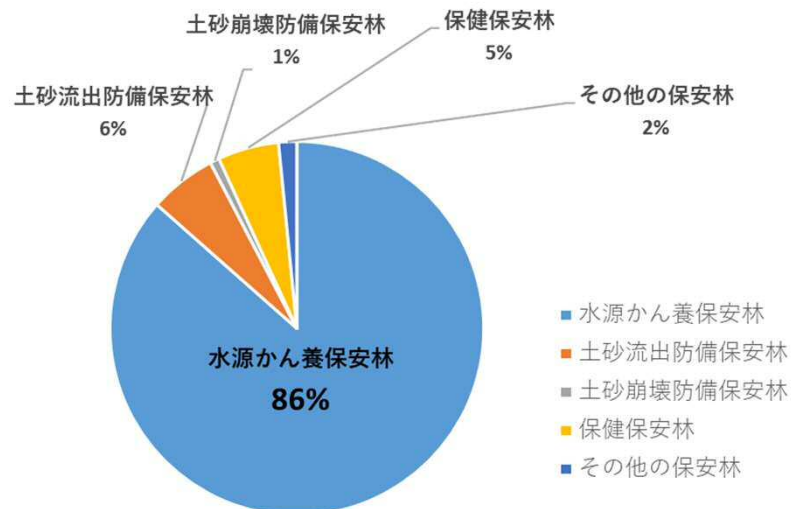
（単位：ha）

市町	保安林指定 実面積	保安林指定 延べ面積	水源かん養 保安林	土砂流出防備 保安林	土砂崩壊防備 保安林	保健保安林	その他の 保安林
松江市	1,473	1,476	722	342	122	29	261
出雲市	7,876	7,878	4,771	1,374	282	616	836
安来市	13,512	13,512	12,907	489	56	29	31
雲南市	18,233	18,316	16,525	790	105	884	13
奥出雲町	17,490	17,502	16,307	973	13	209	0
飯南町	14,172	14,172	11,804	275	11	2,082	1
管内計	72,756	72,857	63,036	4,242	588	3,849	1,142
島根県計	171,183	175,765	153,800	12,126	1,294	6,269	2,275

出典：東部農林水産振興センター調べ



未然防止
復旧工事



〔土砂流出防備保安林〕 谷止工

島根県東部の農林水産業（特徴的な事例）

【出雲】(*)

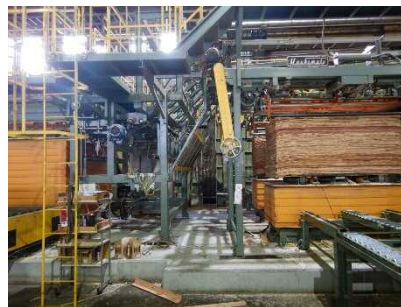
- 県内に唯一の木材製品市場があり、県内の工務店等へ柱や板を販売
- 短期間で建築工事をするために木材の継ぎ手をあらかじめ加工するプレカット工場が2工場あり、県内だけでなく関西圏域へも出荷



〔島根県産木材ストックヤード〕
出雲木材市場内



〔プレカット工場（須山木材）〕



〔合板（松江エヌエル工業）〕

【松江】(*)

- B材を大量消費する合板工場が3工場
- 木質バイオマス発電所があり、燃料の97%に県内産のチップを使用



〔松江バイオマス発電〕

【雲南】(*)

- 県内で最も熱心に林業に取り組んできた（広葉樹を針葉樹に転換）地域であり、人工林率が最も高い（50%）
- 良質な原木が多く、その一部は、製材の盛んな益田の製材工場へ直送



〔高性能林業機械による原木生産〕



- 原木市場
 - 合板工場
 - バイオマス発電所
 - ▲ チップ工場
- 製材工場88社は
県内全域に点在

（注）事例（*）の出典は、「島根県林業の現状・課題と対応（平成31年4月）」

島根県東部の農林水産業（特徴的な事例）

■低コスト

林業専用道（木材運搬用の道）の普及(*)

- ・今後の整備の中心を林道から林業専用道に転換することで、1 m当たりの開設単価を抑え、結果的に限られた予算内で延長を伸ばし、生産エリアを拡大。



林業専用道	(比較)	林道
8万円/m	費用	25~40万円/m
3m	幅員	3~4m
15km/h	設計速度	20~40km/h
不可(林業専用)	一般通行	可

低コスト造林に資するコンテナ苗生産 (スギ・ヒノキ)



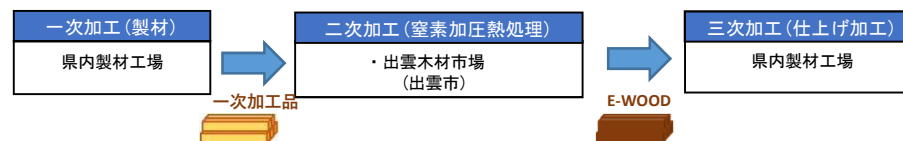
[大原森林組合 委託苗圃]

- ・再造林コストの低コスト化に向け、コンテナ苗を利用した低密度植栽を進めています。
- ・コンテナ苗は、1年を通して植栽が可能であり、活着率も高く、専用器具を用いることで1日当たりの植栽本数も多くなるのが利点です。

(注) 事例(*)の出典は、「島根県林業の現状・課題と対応（平成31年4月）」

■高品質・高付加価値木材製品の出荷拡大

高耐久化天然無害木材「E's-WOOD」(*)



※窒素加圧加熱処理した木材で、防腐、防虫、耐水、耐熱、形状安定に優れた特性を持つ。



出雲市内の福祉施設のフェンスに使用

シロアリ等の防虫性能に優れていないが、薬剤を一切使用していないため、危険な有害物質を発することがない。

■キノコの生産振興



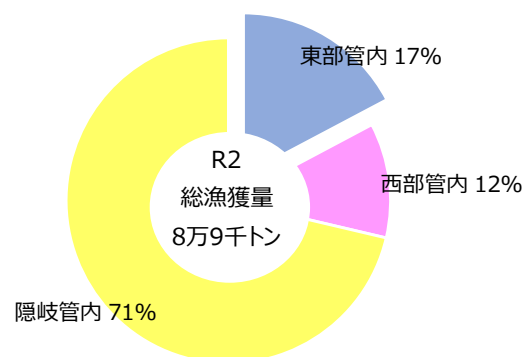
[エノキダケ・県オリジナル品種「黄雲」]

- ・エノキダケ県オリジナル品種「黄雲」は、中山間地域研究センターが開発し、奥出雲町ではH30.12から販売を開始。
- ・きのこは中山間地域の主な産物でもあり、オリジナル品種の導入により販売PRと販路拡大に繋がっていく。

島根県東部の農林水産業

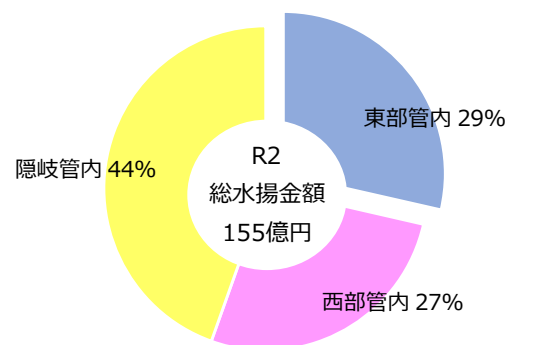
- 令和2年（1～12月）の東部管内の海面漁業漁獲量は約1.4万トン、漁獲金額は約39億円。
その大半が美保関地区となっている。
- 漁獲量割合は県全体の18%であるが、漁獲金額割合では29%を占めている。
- 内水面漁業の漁獲量は、近年4,000トン前後で推移。令和2年のシジミ漁獲量は4,080トン。

■海面漁業の漁獲量割合



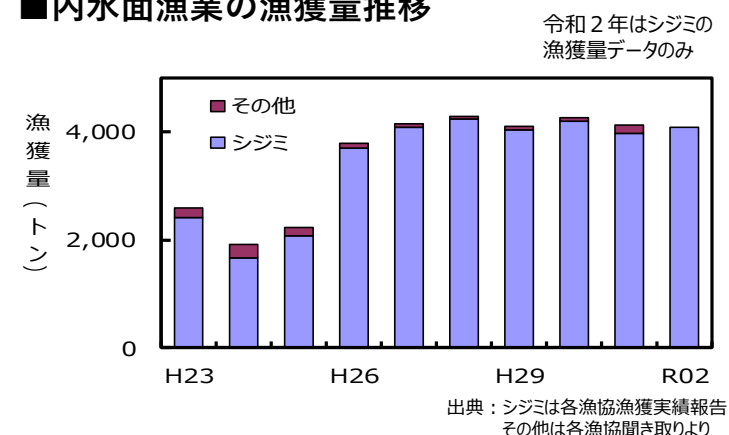
出典：水産技術センター調べ

■海面漁業の漁獲金額割合



出典：水産技術センター調べ

■内水面漁業の漁獲量推移



■地区別漁獲量

単位：トン

地区	H30	R1	R2
美保関町	15,320	11,382	10,667
島根町	687	757	508
御津	168	246	269
恵曇（松江含む）	1,174	873	507
平田町	1,013	842	861
大社町	1,564	1,287	1,336
湖陵町	153	125	145
多伎町	611	514	492
管内合計	20,690	16,027	14,785

出典：水産技術センター調べ

■地区別漁獲金額

単位：百万円

地区	H30	R1	R2
美保関町	2,903	2,980	2,379
島根町	309	332	214
御津	81	114	106
恵曇（松江含む）	563	417	240
平田町	580	523	458
大社町	837	640	533
湖陵町	69	49	39
多伎町	251	207	189
管内合計	5,594	5,263	4,160

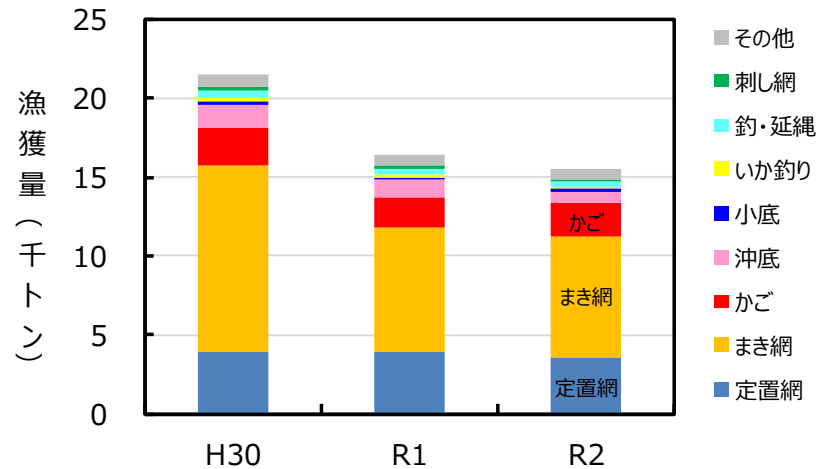
出典：水産技術センター調べ

島根県東部の農林水産業

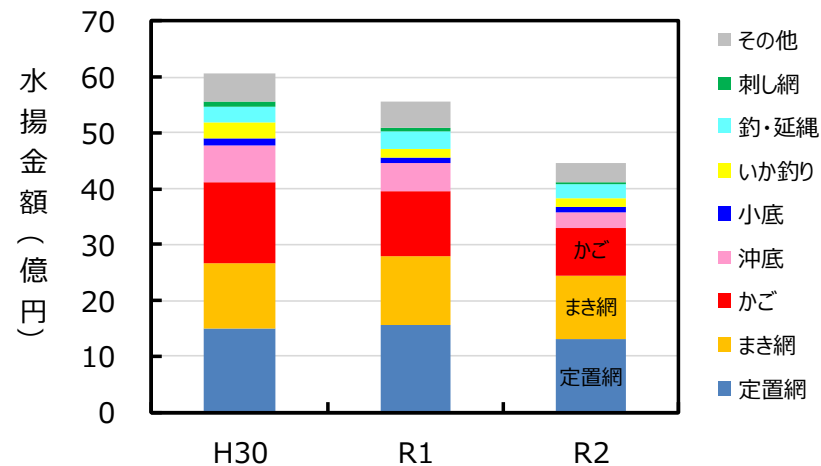
○漁業種別の漁獲量はまき網、定置網の順で多いが、水揚金額は定置網、まき網、かごの順で多くなっている。

○漁港は県管理が10漁港、市管理が21漁港。

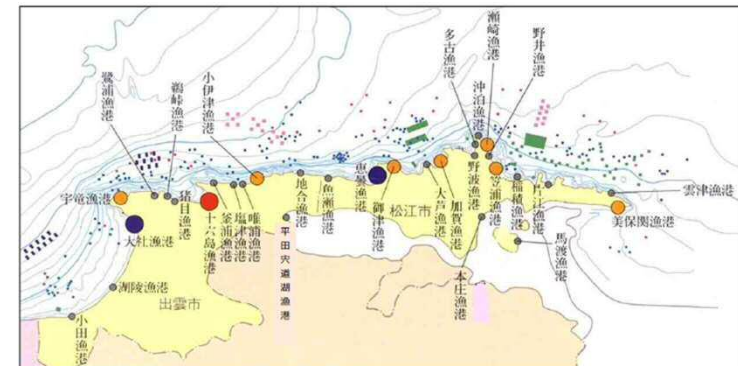
■漁業種別漁獲量の動向



■漁業種別水揚金額の動向



■漁港（県管理漁港10、市管理漁港21）



市名	県管理漁港			市管理漁港	
	●第4種	●第3種	●第2種	●第1種	
松江市		恵曇	美保関 笠浦 瀬崎 加賀 御津	雲津 片江 稲積 野井 沖泊 多古 野波 大芦 本庄 魚瀬 馬渡	
出雲市	十六島	大社	小伊津 宇龍	平田穴道湖 地合 唯浦 塩津 釜浦 猪目 鶴峠 鷺浦 湖陵 小田	
計（全県）	1 (3)	2 (4)	7 (21)	21 (55)	

第4種：離島その他辺地にあつて漁場の開発又は漁船の避難上特に必要なもの

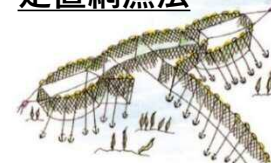
第3種：その利用範囲が全国的なもの

第2種：その利用範囲が第1種漁港よりも広く、第3種漁港に属しないもの

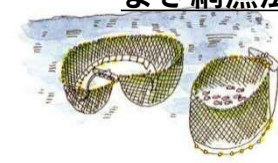
第1種：その利用範囲が地元の水産物を主とするもの

(参考) 主な漁法イメージ

定置網漁法



まき網漁法



島根県東部の農林水産業

- 漁業就業者のうち海面漁業は県全体の33%、湖沼漁業は100%を占めている。
- 新規漁業就業者数は、H26からR1までの6年間で54人、そのうち約8割が雇用漁業者であり、県全体を見ても雇用の割合が高い。

■漁業就業者の状況

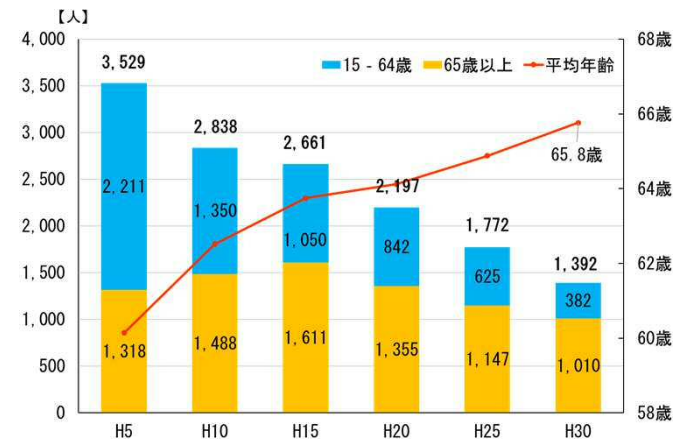
単位：人

	海面漁業	湖沼漁業	計
松江管内	570	277	847
出雲管内	258	266	524
雲南管内	0	0	0
管内計	828	543	1,371
島根県計	2,519	543	3,062

出典：2018年漁業センサス

* 漁業就業者：年間30日以上漁業に従事した者
(ただし、養殖・河川漁業を除く)

■沿岸自営漁業の就業者数の推移



出典：農林水産省「漁業センサス」

■担い手（新規漁業就業者）の状況

圏域		H26	H27	H28	H29	H30	R1	H26-R1	
		(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)
東部管内		14	10	10	14	1	5	54	100
	自営	0	5	2	2	0	2	11	20
	雇用	14	5	8	12	1	3	43	80
島根県計		33	27	35	44	37	27	203	100
	自営	2	6	9	8	5	8	38	19
	雇用	31	21	26	36	32	19	165	81

出典：沿岸漁業振興課調べ

島根県東部の農林水産業（特徴的な事例）

■定置網一覧

番号	経営者	種類	場所	番号	経営者	種類	場所
⑫	(有)平木屋	定置漁業（大型）	手結ネタキ鼻地先	①	美保関大敷網漁業(株)	第2種共同漁業	湾内
⑬	(有)平木屋	第2種共同漁業	六坊	②	美保関大敷網漁業(株)	定置漁業（大型）	美保関早見ガ鼻地先
⑭	地合定置網(有)	小型定置漁業（許可）	地合町地先	③	七類定置網漁業(株)	定置漁業（大型）	七類九島高西ノ浜地先
⑮	(有)平木屋	定置漁業（大型）	美保町地先	④	(株)片江定置	定置漁業（大型）	片江大崎鼻地先
⑯	(有)塩津定置	定置漁業（大型）	塩津町地先	⑤	笠浦大敷網漁業(株)	第2種共同漁業	湾内
⑰	(株)十六島大敷	定置漁業（大型）	十六島町水尻地先	⑥	笠浦大敷網漁業(株)	定置漁業（大型）	笠浦津ノ和鼻地先
⑱	(株)大社大敷	第2種共同漁業	中山（黒田）	⑦	(有)野井定置漁業	定置漁業（大型）	野井築島地先
⑲	(株)大社大敷	小型定置漁業（許可）	杵築西湊原地先	⑧	(有)野井定置漁業	定置漁業（大型）	野井築島地先
⑳	(株)大社大敷	定置漁業（大型）	杵築西湊原地先	⑨	多古大敷網組合	定置漁業（大型）	多古多古鼻地先
㉑	湖陵大敷(有)	第2種共同漁業	湖陵地先	⑩	(有)小川漁業	定置漁業（大型）	加賀馬島地先
㉒	多伎町海洋観光開発(株)	定置漁業（大型）	小田小田西地先	⑪	御津大敷網組合	定置漁業（大型）	御津地先

注）番号欄が黄色の定置網は周年操業



出雲：定置網の水揚げの様子(*)

〔 定置網生産額
県全体で約18億円 〕

- 1経営体あたり11人程度が就業
- 出雲地域の定置網生産額は過去に比べ微増
(12.6億円(H22)→13.2億円(R2))

■松江：ワカメ養殖の水揚げの様子(*)



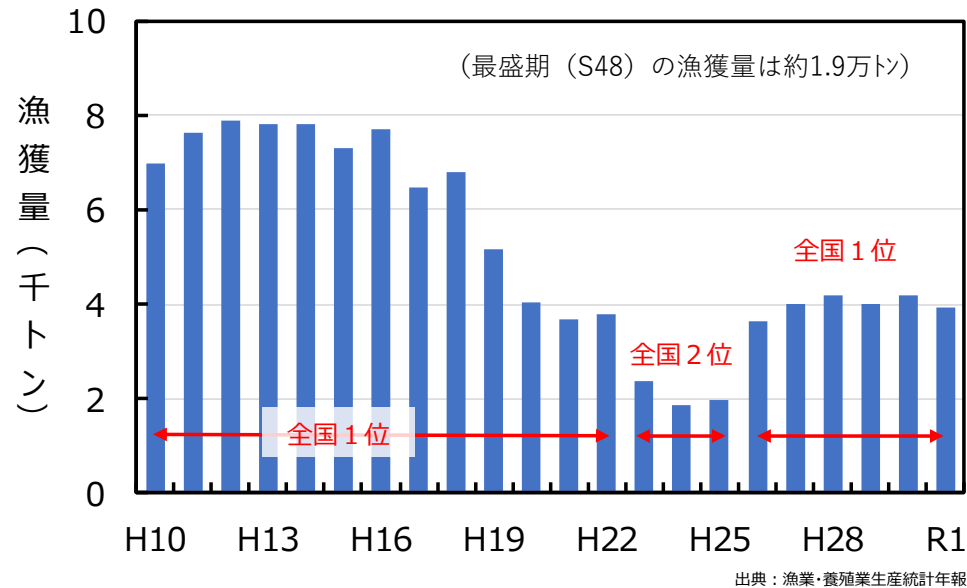
〔 ワカメ養殖の経営体数
20地区で50経営体 〕

ワカメ養殖により、約5ヶ月の期間で1経営体あたり100～300万円の収入を確保

（注）事例（*）の出典は、農林水産部「島根県水産業の現状・課題と対応（平成31年4月）」

島根県東部の農林水産業（特徴的な事例）

■シジミの漁獲量(*)



宍道湖のシジミ

- 島根県の定置網漁業に匹敵する生産額。
- R1の生産量: 3,921トン
生産額: 25.3億円

- 宍道湖において、平成23年から平成25年にかけてシジミ資源が急激に減少したが、漁業者の自主的な資源管理の取組（出漁日数週5日→週4日、1日あたりの漁獲量120kg→90kg）により、平成26年から漁獲は回復し、近年は横ばいで推移。

■特色ある魚介類(*)



宍道湖のシラウオ

- シジミに次いで重要な魚種。
- 漁獲量の変動が大きく、少ない年は数トン、多い年には120トンの漁獲。
- R1の生産量: 90トン



中海のサルボウガイ(アカガイ)

- H24から養殖試験を開始。
- サルボウガイの養殖は全国でも稀。
- かつては中海で約800トンを漁獲。
- R1の生産量: 8.2トン